

インドネシア情報レポート

(2023年11月30日)

(公財)大阪産業局 インドネシアビジネスサポートデスク

PT. JAC Consulting Indonesia

2023年11月にジャカルタ国際展示場(JIエキスポ)で、日本とインドネシアの友好を深めるイベント「ジャカルタ日本祭り」が開催されました。日伊国樹立65周年及び日本・東南アジア諸国連合(ASEAN)友好協力50周年を祝うこのイベントでは200以上のブースと2つのステージで約80組のアーティストが登場しました。フィナーレには太鼓の音を背景にやぐらを囲み盆踊りで締めくくられました。日本語学習者や日本に興味を持つインドネシア人の増加が期待されます。またインドネシアに対し興味を持つ日本人の増加も同様に期待されます。

今月はインドネシアの日系企業の集まるエリアや工業団地を中心に、各地域の特徴をご紹介します。まずインドネシアは4つの大きな島と無数の小島から成り立っています。シンガポール直下にあるスマトラ島、エネルギー資源の豊富なスラウェシ島、首都移転で世界的な注目の集まるカリマンタン島、現首都ジャカルタを有するジャワ島。インドネシアには約2000社日系企業が在るとされ、その殆どがジャワ島(特に西ジャワ)に集まっています。そして、ジャワ島は、ジャカルタを中心としてチカランやカラワンなど日系工業団地が多く存在する西ジャワ、世界遺産が有名な街ジョグジャカルタを有する中央ジャワ、インドネシア第2都市とされるスラバヤを中心とした東ジャワと分けられています。これらの広大なマップの中で、殆どの日系企業が西ジャワに投資を続けてきました。しかし地方と都市部での圧倒的な物価の格差が生まれ、地域毎に定める最低賃金には非常に大きな違いがあります。(例：ジャカルタ IDR 4,901,798、ジョグジャカルタ IDR 1,981,782 等) それ故にインドネシアへの新たな投資を検討する日本の製造業は、工場を都市部から離れた中央ジャワを候補地と考える企業が増えている状況です。他方で、現在北ジャカルタで急速に発展が進んでいるエリア「PIK」や南タンゲランの「BSD」と呼ばれるエリアは、デベロッパーや日系不動産を始めとして非常に注目が集まっています。ジャカルタの交通インフラの普及と共により大きな都市へと発展する事が期待されます。

今後インドネシアへの日系企業進出エリアは業種により、大きな違いが生まれると予想されます。都市部密集の進出形態から分散へと変化していくか注目されます。